

## 今年度の主な事業

### 総務費

【地域活動元気応援事業:18,055千円】

地域活性化に関連する取組を行っている市内団体等を対象に事業提案を公募し、助成金を交付する事業。

### 民生費

【重層的支援体制移行準備事業:32,511千円】

個人や世帯が抱える複雑化・複合化した課題に対し、支援機関・地域の関係者で一体的に対応する「重層的支援体制」構築に向けた準備事業。

### 衛生費

【火葬施設老朽化対策事業:187,212千円】

火葬炉の老朽化や高齢社会の進展による火葬件数の増加に対応するため、必要な規模と機能を備えた新たな火葬場の整備を行う事業。

### 商工費

【うるま感動産業特区プロモーション事業:56,299千円】

うるまらしいコンテンツを活用したプロモーションを行うことでうるま市の認知度向上、観光誘客を図る事業。

### 土木費

【勝連城跡周辺文化観光拠点整備事業:117,852千円】

世界遺産である勝連城跡の歴史環境保全、観光振興及び地域活性化等に資する拠点を整備する事業。

### 消防費

【沖縄県消防指令センター整備事業:1,439,189千円】

県内37市町村が加盟する沖縄県消防指令センターをうるま市が主体となり、整備する事業。

### 教育費

【学校給食食材支援事業:66,238千円】

物価高騰の影響に伴う食材費等の上昇に対し、保護者の負担を増やさず、かつ給食の質や量を落とさずに学校給食を提供できるよう支援を実施する事業。

市民一人当たり納税額 =  $\frac{\text{市税}}{\text{人口}}$  = **106,209円**

市民一人当たり予算額 =  $\frac{\text{一般会計}}{\text{人口}}$  = **579,482円**

**差額 = ▲473,273円**

市民一人あたりの納税額と予算額の差額47万3273円は地方交付税や国庫の支出金、また市の借金等で賄われています。

予算額の内訳を市民一人あたりで見ると…

(令和6年4月1日現在の人口126,454人で換算)



## 予算で使われる用語の意味

### 【一般会計と特別会計】

一般会計は福祉や教育、道路・公園や衛生など市の基本的な施策を行うための会計で、特別会計は特定の収入をもって特定の事業を実施するために設けられている会計です。

### 【自主財源と依存財源】

自主財源は、市税やごみ処理手数料など市が自主的に収入できる財源のことで、依存財源は、国や県から交付されたり割り当てられる収入のことです。

### 【市税】

市民税や固定資産税など、市民や市内の事業所などが納めた税金です。

### 【地方交付税】

全国的に一定水準の行政サービスが実施できるよう、歳入の格差を調整するために国から配られるお金です。

### 【国・県支出金】

事業を実施するための特定目的の財源として、国や県から交付される使いみちが決められているお金です。

### 【総務費】

市の全般的な管理事務・事業や交通安全、防犯対策などに要する費用です。

### 【民生費】

児童、高齢者、障がい者などの福祉に要する費用です。

### 【土木費】

道路建設や公園の整備、市営住宅の管理などに要する費用です。

### 【教育費】

小中学校をはじめとする学校教育や社会教育・文化振興などの教育全般にわたる費用です。

### 【公債費】

地方公共団体が借り入れた市債(長期の借金)の元利償還金及び一時借入金の利子です。

### 【人件費】

職員等に対し勤労の対価、報酬として支払われる費用です。

### 【扶助費】

児童から高齢者まで幅広い市民を対象に国の法令や市の条例などにに基づき、社会生活を援助するために支出する費用です。

### 【普通建設事業費】

学校や公営住宅、道路などを建設するための費用です。